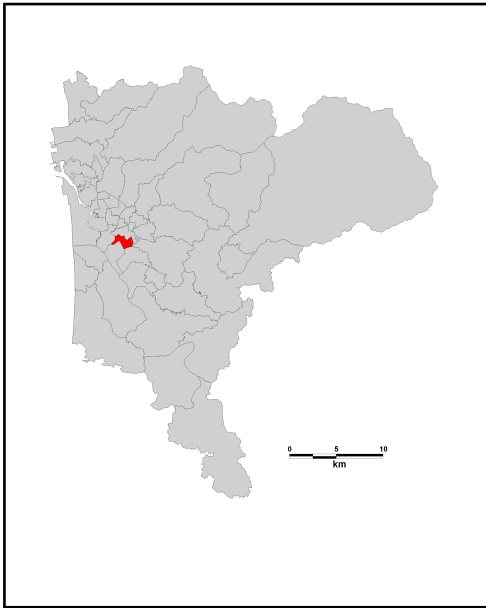
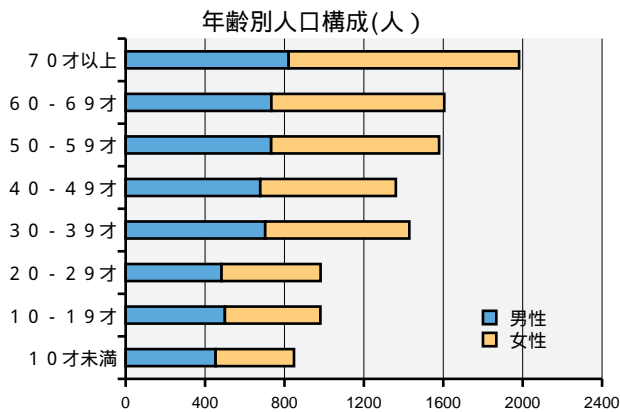


## 位置図



## 1 居住者の現況

人口(人)	10,767
世帯数(世帯)	4,520
65歳以上人口(人)	2,764
65歳以上世帯(世帯)	1,168
5歳未満人口(人)	421



## 2 建物に関する指標

### 構造別建物棟数(棟)

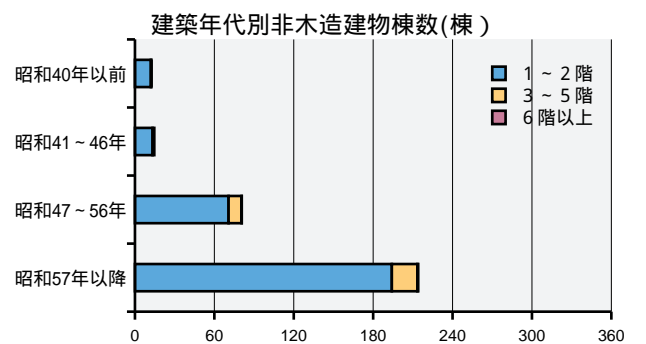
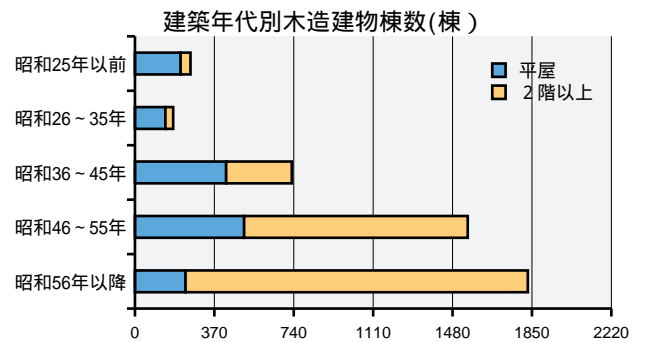
木造建物	4,549
非木造建物	322
合計	4,871

### 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	236	1,595
昭和46年～昭和55年	509	1,042
昭和36年～昭和45年	425	306
昭和26年～昭和35年	142	36
昭和25年以前	213	46

### 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	194	19	1
昭和47年～昭和56年	71	10	0
昭和41年～昭和46年	13	1	0
昭和40年以前	12	0	0



## 自然的・社会的基本指標

秋田市街地の南側に位置している。学校区内を太平川、猿田川が流れており、平坦な地形となっている。地盤は沖積層が分布している。人口構成は30歳未満と30歳以上の年代で構成比が異なり、高齢者が相対的に多い。65歳以上の高齢者層は、全体の26%である。建物の密集度は高く、昭和56年以降の建物は全体の42%である。

### 3 急傾斜地等の現況

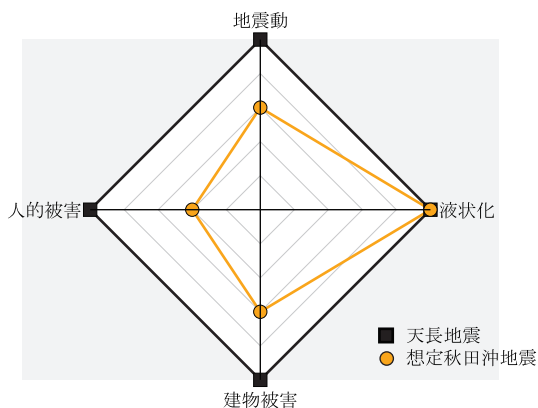
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所( 3 )	金照寺、楯山城南、城南
なだれ危険箇所( 2 )	楯山城南町、城南
地すべり危険箇所( 0 )	該当箇所なし
土石流危険渓流( 0 )	該当箇所なし

### 4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

#### ■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6 強	5 強
液状化危険度	ランク 5	ランク 5
木造建物大破数(棟)	716	93
非木造建物大破数(棟)	33	6
死者数(人)	59	6

被害想定結果レーダーチャート



#### レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

#### 地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は6 強と激しい地震動となる。それに伴い、広い範囲で液状化する可能性がかなり高い。また、700棟以上の建物の大破被害が発生し、死者数も60人程度となり、非常に大きい被害となることが想定される。

想定秋田沖地震では、平均震度は5 強、液状化する可能性は広い範囲がかなり高く、建物の大破被害も100棟以上と、死者も発生するものと想定される。

#### 津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

### 5 防火・防災施設に関する指標

#### ■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	80
防火水槽(箇所)	5
消防車台数(台)	10
消防ポンプ数(台)	1
消防団員数(人)	18

#### ■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
牛島小学校	屋内	223
南部公民館	屋内	120
牛島小学校グラウンド	屋外	4,950
第34号牛島運動公園	屋外	2,750

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田消防署、秋田南消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院数	7
最寄の救急告示病院	中通総合病院、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院
自主防災組織数	37

#### ■ 学校区内の主要な公共施設

施設名	住所
南部公民館	牛島東六丁目4-5

#### 防災上の課題と対策

牛島小学校区では、建物密集度が高くかつ、旧耐震木造建物の比率が高い。人口も市内でももっとも稠密な地域であるとともに、近年防災対応力の高い年齢層人口が減少している。学校区内の避難所(屋内)の収容人員は人口の約3%程度にとどまっており、学校区内の避難所だけでは避難者を屋内に収容しきれないことが強く懸念されるため、近隣学校区を含めたやや広域的な避難所、危険箇所の位置をあらかじめ住民に十分に広報し、事前の備えについての啓発をさらに計ることが望まれる。大住小学校区との境界にJR羽後牛島駅があり、隣接地には卸センターも位置していることから、災害時に非居住者が学校区内に滞留することも考えられる。このような非居住者の避難や帰宅についても検討しておくことが必要である。